

1 事業内容

団体名	幼い子どもたちのためのコンサート実行委員会
事業名	幼い子どもたちのためのコンサートひろば
課題テーマ	若い世代を社会全体で支える
事業提案の背景	音楽に触れる体験については、幼児にとって情操のためにもたいへん大切であることが言われているが、一般的には未就学の子供たちは入場料金のかかるプロの演奏会には行くことができず、大人と同様に「鑑賞マナー」が要求される。また現在は共働き家庭が増えていて、日常的に多様な人とのつながりを持つことにも機会が限られている。
事業目的	幼児期の子どもたちに、音楽の体験をすることについては全国的に広まっており、子育て支援の対策の一つとして、母親、幼児に向けて「0歳児のためのコンサート」なども企画されることも最近増えている。 釧路短大に在職の進藤が、ここ数年にわたって取り組んできた研究課題、「保育者を目指す学生の大きな学びの機会」と、「これから育ていく幼い子どもたちの情操教育の場」また、様々な人や団体との多様な交流を通して、心豊かなこどもの育ちを以下のように考え、目的とした。 1 情操教育＝子どもたちの感動体験創出 ②連携（子どもたち・子育てに関わる人や団体との多様な交流） ③子育て家庭と子どもたちの感動の情報発信
事業概要	(1) 主事業（情操教育＝子どもたちの感動体験創出） 「幼い子どもたちのためのコンサートひろば」 会場 釧路市生涯学習センター大ホール(資料別添) ＊これまで、小規模施設（EGG・釧路芸術館アートホールなど）で企画・実施した実績がある。今回は、一般規模施設（より多くの市民の参加が可能な施設）においても子育て世代の人たちが親子で感動体験ができるということを実証していくもの (2) 関連（連携）事業（子どもたち・子育てに関わる人や団体との多様な交流） 通常のコンサートとは異なり、企画準備の段階から実施後まで、様々な団体・関係者との連携・コミュニケーションが求められる。これらのプロセスを重視し、事業そのものに幅を持たせていく。 1) 就労支援の人たちによる販売活動を通じた交流 2) 子育て世代間交流（子育て意見交換・ワーク

	ショップなど) (すてっぷ・るんちゃんショップ・ハンドメイドショップが参加した) 3) 多世代コミュニティ交流 (ゲスト演奏者・地元少女少女合唱団・事業実施サポート学生・親子たち・幼児教育者・保育実務者など) +当日の来場は大人350人こども150人以上(500人以上参加) (3) 子どもたちの感動の情報発信 事業プロセスを体系的に整理し記録化した。また「子どもたちの感動」そのものを動画におさめ、広く発信する予定。
事業展開	コンサートには、プロとして活躍している演奏家を始め、地元の子どもたち・釧路短期大学の音楽ゼミナールなどの学生たちがステージを作り、子育て支援を学ぶ学生たちは、参加の子どもたちへ見守りや、サポートなどを担うことになる。幼い子供たちや、その保護者が、一つの企画の中で、良い音楽に触れる機会として、また多世代・障害のあるひとなどとの交流から、多くの体験を得て子育てに希望や勇気を得ること、また手づくりで様々な子どもたちへの作品を提供する母親たちのグループとのつながりを持つことで子育てに夢を描くことが出来る流れの一つになる。
成果目標の達成状況	家族で楽しい充実した時間の共有と・本格的なコンサートに触れて、子どもたちの情操教育に役立つこと。また子どもの良質な成育環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援することを目標として開催したが、予想以上に広がりのある市民の参加を得ることができた ・就労支援施設利用者・認知症を患うお年寄りを誘って参加して下さった方からの時間を楽しんで下さったという感想もあった。
波及効果の達成状況	1 コロナ禍の中、親子で音楽を楽しむことで、子どもの情操教育ばかりか大人の癒しとなった様子を感じる事ができ、終了後の新聞報道からも状況を感じる事ができた 2 コンサートひろばを形作っている協力団体及び協力するスタッフとの交流から、音楽だけにとどまらない互いの支え合いの場ができ、その後の活動につながることを視野の入れたが、協力学生が積極的に、子どもたちの世話や、協力団体への支えあいも予想以上にすることができた 3 コンサートを通して、子ども・子育て家庭・子育てを支援する人・地域で暮らす様々な人が、気軽に和やかに交わる機会ができた。
実施体制	釧路短期大学(緑ヶ岡学園)は釧路市と連携体制も整っており、短大に勤務する進藤が、ネットワークを作って、様々な団体と協力体制を作る。(実行委員会 代表 進藤信子)
連携した市担当課	有 (こども保健部 こども育成 課・東部子育て支援センター)

連携した市担当課が
果たした役割
(※有の場合)

「豊かな感性を育てること」と音楽との結びつきは不可欠である。
釧路市が、「子ども・子育て支援新制度」の実施において、保護者が子育てについての第一義的責任を有するという基本的認識の下に、幼児期の学校教育・保育、地域の子ども・子育て支援を総合的に推進し、全ての子どもの良質な成育環境を保障し、子ども・子育て家庭を社会全体で支援することを目的としていることに基づき、子育て家庭と関わりの深い子育て支援拠点センターを介して周知拡大していただくことができ、さまざまな協力団体との連携を図ることに大きな力を得ることができた。

2 支出決算書と支出内訳

(収入)

費目	収入 (円)	内訳
輝くまちづくり交付金	150,000	
広告協賛	25,000	優心病院・シロアム・リライアブル・エルム
入場料 (プレイガイド・当日)	157,925	プレイガイド (36,425 円、当日 81,500 円、チケット協力 40,000 円)
自己資金	44,498	
合 計	377,423	

(支出)

費目	決算額 (円)	内訳
対象経費		
印刷製本費	122,650	コンサートのチラシ・プログラム
使用料・賃借料	48,246	まなぼっと大ホール
謝礼	30,000	演奏謝礼
委託料	65,172	記録用DVD・音響
消耗品費	24,551	文具・当日土産
旅費	50,000	従事者の旅費
役務費	13,574	保険料・郵便物・切手代・広告料
小 計	354,193	
対象外経費		
人件費	13,230	実行委員会臨時スタッフ
謝礼	10,000	演奏謝礼
小 計	23,230	
合 計	377,423	